



9枚の白い花びらがある梅のような花を9輪描き、冬至(12月22日ごろ)から毎日1枚の花びらに色を塗っていく。81日たてば、すべての花びらに色が付いて満開となる。暦は3月10日過ぎ。寒さの続く日々を1日ずつ数えて乗り越えながら、やがて訪れる春を待つ。中国の「九九消寒」という古い風習だそうです。

まさにその厳しさのまっただ中にある3年生。1月19日の面接テストでは、さすが受験生という態度で、志望の動機や将来の夢などもしっかり語れました。もう既に高等専門学校での推薦入試を受験した生徒もいますが、多くの生徒は2月1日・2日の私立1期入試、14日・15日の公立特別入試、23日の私立2期入試、そして3月8日・9日の公立一般入試へとこれから立ち向かっていきます。春までもう一踏ん張りです。インフルエンザが流行する時期でもあります。健康管理に気をつけ、当たり前のことやしなければならぬことを最後まで強い心を持ってやり抜き、級友と共に残された1日1日の学校生活を大切にして乗り越えていって欲しいと思います。

2年生は、この3学期を3年生0学期と捉え、最高学年になる準備を始めています。勉強や部活動、委員会活動に一生懸命取り組む生徒が増え、最高学年になる自覚が感じられます。特に、「授業に臨む姿勢が向上した生徒が増えた。」「毎トレの内容が充実した。」という声を職員室でよく聞きます。嬉しく思います。また、沖縄戦や基地問題、歴史や文化についての調べ学習など、実行委員会を中心に修学旅行の準備にも取り掛かり始めました。どんな3年生になってくれるのかとても楽しみです。

1年生は、2年生での職場体験につながる身近な職業調べを始めています。また、自分たちで学校生活を充実させるため、2学期から毎週水曜日の朝、学級委員を中心とした学年集会を行っています。1年生は、入学以来ずっとみんなで授業が大切にできており、学年・学級のまとまりを感じます。これから新入生の良い手本になってくれそうです。

1・2年生は、今のまま、友達を大切に、規則正しい、落ち着いた生活を続けていくことが、将来の受験への確実な備えになります。がんばれ！がんばれ！



～学校給食週間～ (1月24日～30日)

学校給食は、明治22年に始まって以来、各地に広がっていきましたが、戦争の影響などによって中断されました。戦後、食糧難による児童の栄養状態の悪化を背景に学校給食の再開を求める国民の声が高まるようになり、昭和22年に米国から給食用物資の寄贈を受けて再開されました。同年12月24日に、東京都内の小学校で給食用物資の贈呈式が行われ、それ以来この日を学校給食感謝の日と定め、昭和25年度から1月24日から30日までの1週間を「学校給食週間」とすることになりました。

成長に必要な栄養素の必要量が生涯の中で最も多いのが中学生の時期であり、栄養バランスに配慮された給食をしっかりと食べることは大切なことです。最近牛乳の残量が増えていることが気になります。これを機に学校給食の意義や役割について再度学習することになっています。また、生徒は生活委員会が中心となって、給食センターの方々へ感謝の手紙を書く計画をしています。

気づいてる？ 自分の行動と 相手の気持ち

赤磐市人権標語 優秀賞

